

駒ヶ根市文化財

名称	長春寺の阿弥陀如来立像
種別	美術工芸品(彫刻)
所在地	下平
所有者	長春寺
説明	<p>長春寺の位牌堂に安置してある。この仏像はかねてから古い仏像といわれ、釈迦如来仏像とされていたが、昭和 58 年(1983)県依頼の文化財調査においてかなり詳しい調査を終えた。その後の調査もあって、阿弥陀如来像と判定され、平成元年(1989)完全な修復がなされた。</p> <p>立像の総長 78.0cm、ヒノキ材の一木造、漆金泥を用いている。漆が地肌に出ているが、部分的に良質の金が残り輝いている。螺髪(らほつ)彫出、肉髻(にくけい)は木、白毫(びやくごう)あり、彫眼、鼻に縞があり、頬はやや丸味をもちしまっている。衣紋の線が実に流麗であり、彫刻の各所に室町時代の手法がうかがわれるところから室町期の作と推定されている。</p> <p>阿弥陀如来立像のこの形式は鎌倉時代に中央から地方へ広まったとされており、この仏像も東濃あたりの地方仏師の作ではないかと研究者は推定している。</p> <p>台座は三層から成っている。光背は総長 105.0cm の舟形で、これは金箔の質が悪く製作年代もかなり下って江戸中期、光背裏側の銘によれば享保 12 年(1727)檀越(だんおつ)福澤氏の寄進、当寺中興開山から 5 代にあたる甚應の代である</p>



阿弥陀如来立像（全体）



阿弥陀如来立像（上部）